

宝塚のトンボ 「キイトトンボ」

森野光太郎



キイトトンボは3～5cm くらいの体長で、日本では本州・四国・九州に広く分布するイトトンボです。

このイトトンボは平地から山地にかけて植物がたくさん生えている池とまれに湿地にすんでいます。宝塚でも色々な場所で観察されていますが、近年、農薬やため池管理が変わったり、宅地造成によって急速に生息場所が減っている虫の一つです。キイトトンボを野外で見かけた時は、黄色～レモン色をした細い棒が動いているように見えます。トンボの体色は種類によって違いますが、基本的にはオス・メスと未成熟・成熟によって変化する昆虫です。

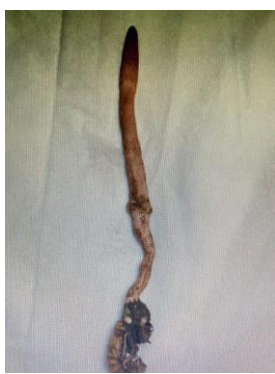


また未成熟初期のトンボ、体が非常にやわらかい羽化直後～しっかり固まるまでの短い期間の個体の状態をテネラルと呼ぶこともあります。キイトトンボのオスの場合は、未成熟と成熟個体の写真を比較すると成熟個体の方が色の濃淡がはっきりしていることで判別できます。

皆さんのところでも、ガマやヒシなどがものすごく繁茂する池や湿地があれば、もしかするとキイトトンボがいるかもしれません。(※上の写真:キイトトンボ成熟オス、下の写真:キイトトンボ未成熟オス、市内で撮影)

「セミタケ」

菊田 穰



裏庭にセミタケが出ました。右側の写真は以前に掘り出したセミタケの写真です。ニイニイゼミの幼虫から出ています。冬虫夏草の一つですね。

※ 冬虫夏草とは動物性キノコにつけられた名前。昆虫に寄生し、キノコに姿を変えて、その身を地上に現します。虫から生える草のように見えるから、「冬虫夏草」と、うまい名前をつけたものです。

☆阪神マイスターズのカワラサイコの観察会参加者から宝塚市自然保護協会宛てにメールをいただきました。



宝塚市自然保護協会 様 西宮市 徳島輝彦
本日は我々のグループ(阪神マイスターズ)の自主研修で武庫川の川岸に咲き誇る黄色い可憐な花カワラサイコの観察会に参加致しました。私にとっては、カワラサイコとの再会は3年ぶりです。前回は株数調査に参加致し、真夏の太陽に照らされながら株数を数えるのに、必死でした。今回は調査ではなく観察会でしたので、ゆっくりとカワラサイコを愛で

ながら雑草にも負けずにしっかりと根を張り、3年前よりカワラサイコが群生している様に観えました。黄色い可憐な花をつけるには人の手無くしては保てません。熱心な自然保護者の努力の賜物だと感動して帰って来ました。

森本先生のキメ細かな説明と、カワラサイコの可憐な花達に囲まれての2時間はアツというまででした。

※西播地区の方では、シカの食害でカワラサイコが食べられてしまい、宝塚のカワラサイコがちょっと貴重なものになってきたようですよ。皆さんも是非、見に行ってください。

☆7月24日 逆瀬川「水辺の生き物探検」前に

猛暑の中、逆瀬川で水辺の生き物探検を保護協会と市役所環境政策課の共催で実施しました。実施前の少し空いた時間で、どんな生き物がいるのかを写真に撮りました。



(ミヤマアカネ)



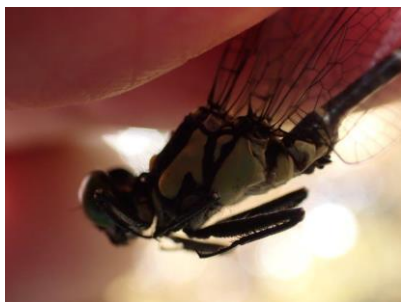
(ハグロトンボ)



(アオメアブがオンブバッタを捕食)



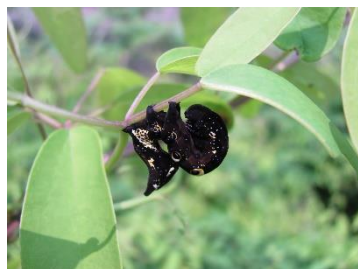
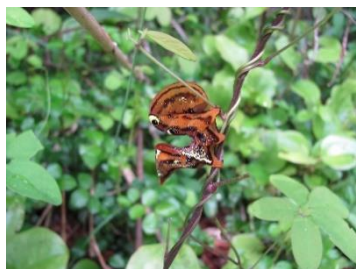
(オジロサナエ：胸横にYの字が見えます)



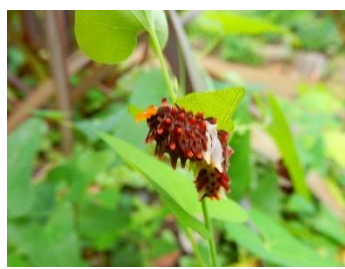
その他、目視になりますがアオスジアゲハ、モンシロチョウ、ヒメアカタテハ、ナミアゲハ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、オニヤンマ、モノサシトンボ、セグロセキレイ、コサギ等が見られました。

☆質問コーナー「チョウの幼虫の色違いは何を意味する？」

前回のニュースレターで取り上げられていたアケビコノハとジャコウアゲハの幼虫に色が違うものがあります。ネットで調べても確かなことがわかりません。ぜひご教示お願いします。(森田 至)



アケビコノハの幼虫 (茶色と黒色)



ジャコウアゲハの幼虫 (茶色と黒色)

※もし、ご存知の方がおられましたら是非教えてください。(投稿先のメールへお願いします)

天神川 (バラ公園横) で、このジャコウアゲハの幼虫をよく見かけます。言われてみて、たしかに色の違うのがあるなと思いますね。よろしくお願いします。